



『「JR東労組東京地本第42回定期大会発言」に基づく申し入れ』 首都圏本部へ提出！

東京地本は「第42回定期大会」を開催し、2024年度の運動の総括と2025年度の運動方針を代議員の声に基づき、満場一致で確認しました。大会発言に基づき、東地申第 001 号の申し入れを首都圏本部に提出しています。

働きやすい職場は会社だけでは作れない！

要求実現を目指し、JR 東労組東京地本は会社と議論します！

1. 「安全をトッププライオリティ」とした企業を創り上げるために、運転取扱い業務については、繰り返した業務に就かせながら個人に技術が定着する体制を築くこと。また、職場単位での技量維持の観点から、作業頻度が少ない業務については定期的に三現主義に基づいた訓練の実施や、乗務行路の持ち替え等を実施すること。
2. 尾久駅構内で発生した車両移動機(アント)の脱線について、原因と対策を具体的に示すこと。
3. 要員不足に対する現在の首都圏本部の考えを具体的に示すとともに、要員に関しては出面数に加えて、年間休日数(公休特休)の確保、年休の十分な消化、省令や社内規程等に定められた訓練に滞りなく参加できる体制を確保すること。
4. 中野統括センター中野南乗務ユニットで発生した乗務員疾病による日勤に就いた社員に対する対応について、日勤の目的と乗務復帰に向けた取り組みを具体的に示すこと。
5. 乗務員職場の分割行路の設定は、職場の組合員・社員の意見を反映し、仕事と育児、介護の両立を果たせる設定とすること。また、必要に応じて時短行路を設定すること。
6. 熱中症対策をさらに推進し、全ての組合員・社員が安心して働くために、以下の対策を実施し、労働環境を整えること。
 - ① ファン付きベストに装着する保冷剤を職場ごとに用意すること。
 - ② 箇所の作業ダイヤに、熱中症リスク軽減を目的としたサマーダイヤ(仮称)を導入すること。
 - ③ 遮熱塗料の導入を検討すること。
7. 東京総合指令室においては過去より、事象が発生すれば休憩も取れず、深徹が当たり前のようになっていることから、仮眠や休憩を取らせながら業務を遂行させること。
8. 輸送指令員が担当する方面の壁をなくすための「指令室改革」構想については、生見尾踏切の事象なども踏まえ、指令員にはこれまでの経験を活かした「主たる線区」を中心とした業務に就かせ、「指令のプロフェッショナル」を育成すること。
9. インターン制度による東京総合指令室との兼務の実施については、教育や要員への影響があることから、東京総合指令室へのインターン制度は中止すること。
10. 輸送系統の社員には「運転協会誌」の申し込みをさせている実態があることから、しっかりと説明を行うと共に、申し込みや退会含めて社員の意志を尊重すること。